

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100442		
法人名	株式会社アルカディア		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ハピユシ		
所在地	沖縄県那覇市松尾2丁目17番45号		
自己評価作成日	令和2年 9月19日	評価結果市町村受理日	令和2年 12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100442-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で入居者全員が穏やかに過ごしています。起床時間は入居者によりまちまちで、食後の過ごし方も個々の落ち着ける場所で(ソファやベット)で午睡タイムを取ったり自席で新聞を読んだり手工芸を楽しんだりゆったりとした時間を過ごされています。又、日常生活活動を分担して洗濯物・掃除などを職員と一緒にしています。他にも健康を維持するために口腔体操や健康体操を取り入れたりしています。又、ボランティアの方たちと、ウクレレや三線の演奏に合わせて歌を楽しんだり、踊りに参加したり楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所周辺は再開発が進み、地域住民との連携が困難な中、地域交流室の活用や買い物、散歩等を継続し、知人との交流の機会を作ったり、祭りに参加したり、隣接する高齢者施設と消防訓練に取り組むなど、地道に努力している。身体拘束しないケアの実践に向けて、指針やマニュアルを整備し、定期的に検討会議及び研修を実施し、理念と照らし合わせて話し合い、取り組んでいる。更に入居者のストレス軽減のために、コロナ禍においても感染防止を図りつつ、屋上や近隣公園の散歩、ドライブ等を実践している。服薬についても、服薬ゼリーやはちみつ等を利用する他、かかりつけ医や薬剤師と連携しながら減薬や形状の変更にも努める等、適切な服薬支援に努めている。入浴は、同性介助を嫌がる男性利用者には女性職員が対応しているが、同性介助を原則として実践している。入浴へのこだわりを理解し、好きなタオルやシャンプー類の使用、洗い方を尊重したり、必要時は職員二人で対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に沿って一人一人の気持ちに寄り添い人格の尊厳を保持しありのままを受け入れ住み慣れた地域の一人として生き生きと過ごせるようケアの技術・質向上に取り組み支援に努めている。	「人格の尊厳」「地域交流」「技術向上」の理念をフロアに掲示し、勉強会やミーティング等で唱和している。入居者へのケアについて職員間での意見の相違があった場合、理念と照らし合わせて考えることで、少しずつ理念の浸透が図られてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域交流室をや一にんじゅ会に(三線・踊り)等の練習の場として提供し、その中で入居者も交流しています。又、敬老会・納涼祭等の行事にも協力参加していただき交流を図っています。	地域交流室の利用者と入居者との交流を続けていたが、4月以降新型コロナウイルス感染症予防のため中止している。事業所周辺地域は再開発が進められ、事業所独自のイベント案内を配布した際も、事業所の存在を知る住民は少なかった。隣接する高齢者施設より、地域の祭りへの声掛けがあり、入居者と参加したことをきっかけに、事業所間での防災訓練実施へと繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム内で地域の方によるウクレレや、三線の訪問演奏を行っておりその中で入居者とのかわりを持って理解していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する推進会議では利用状況や活動報告のほか事故・ヒヤリハット報告等をし、そこで出た意見や要望を取り入れサービスの質の向上に活かしています。	新規契約時に運営推進会議への参加協力を依頼し、交代制で家族も参加する他、入居者や行政、地域包括支援センター職員、知見者参加の下開催し、4月以降は新型コロナウイルス感染症予防の為、関係者に資料を送付している。議事録はカウンター前に置かれ、自由に閲覧できる。運営状況や事故・ヒヤリハット等報告し、質問に答えているが、具体的な課題をテーマにした話し合いには至っていない。	事業所の報告等に対する質疑応答だけでなく、事業所の具体的な課題について協議し、運営やサービス向上に活かせるような会議の在り方について工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会に参加した時や又日頃より疑問に感じたことがあった時には連絡して相談助言指導を受けています。	グループホーム連絡会や運営推進会議の席の他、事業運営上の解釈等について電話等で問い合わせ、アドバイスを受けている。新型コロナウイルス感染症対策についても、行政から備品調達等必要な情報が送られ、質問に対しても丁寧に対応される等、日頃から連携を図っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の勉強会を行い職員全員で理解し対処できるよう、緊急止むを得ない場合の要因対策等の話し合いを持っている。	身体的拘束等の適正化のための指針・マニュアルを整備し、運営規程や契約書、重要事項説明書にも明記し、利用者・家族に、事業所の方針を伝えている。3か月ごとに委員会、及び勉強会を開催している。センサーマット使用や、睡眠時のみベッドを低床にすることについても職員間で協議し、家族に説明して同意を得る等、拘束しないケアの実践に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の勉強会での理解や日頃から虐待について見過ごして点はないか、発生の要因捉え方防止について話し合いをしている。	虐待防止に関する指針・マニュアルを整備し、2か月に1回研修を開催している。外部研修に参加した職員が伝達研修を実施し、全職員で共有している。コロナ禍において、屋上や近隣の公園散歩、海にドライブに出かける等の支援に努め、入居者のストレス解消を図り、心身の安定に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内での勉強会に参加してもらい、職員へは正しい知識と理解を深めてもらいそれらを活かした支援を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約書や、重要事項説明の十分な説明読み合わせを行い入居者・家族様の不安や疑問がある場合は、随時説明して理解していただけるよう対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録を開示し日頃より、家族や入居者からの意見が言えるような雰囲気・関係作りにも努め面会時や担当者会議等で伺えるようにしている。	運営推進会議への家族の参加を交代制にして、幅広く意見を聞く仕組みを作っている。担当職員制により、各職員も利用者や家族とのコミュニケーションに努めている。新型コロナウイルス感染症防止のための面会制限に対し、利用者のストレス増を心配する家族の声があり、事業所の取り組みを説明したり、かじまや一祝いの希望に応え、感染防止に努めながら実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	できている。その時々状況に合わせて、また定期ミーティング内で職員の意見を取り入れる工夫をしている。	月1~2回の職員会議の席で、意見を聞いている。職員の希望や経験等を考慮して研修を勧め、必要な研修には勤務扱いで参加させている。夜勤を含めた勤務シフトについて様々な意見が出ており、改善のためにアンケートを実施し、対応策を協議する準備を進めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できている。勤務作成時に希望休や年次休暇を受け入れ、スキルアップのための研修等の参加者は出勤扱いとしています。又、研修終了後は研修報告をしてもらい職員全員で共有スキルアップにしている。	就業規則を整備し、必要な健康診断やストレスチェックも、年2回実施している。昨年度は持病の悪化や業務外でのケガ等の理由で退職者が複数出て、夜勤可能な職員に偏りがあるため、改善に向けた対応を検討している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼできている。グループホーム内での月に数回の勉強会のほか、月一回の施設全体の勉強会に参加してもらい又外部研修等に参加後は報告を兼ねた勉強会で情報を共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほぼできている。入居者と一緒に月に一度の他グループホームへ訪問交流のほか、推進会議やグループホーム連絡会での情報交換等をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほぼできている。本人の要望を支援できるようコミュニケーションを取り安心を確保できる関係づくりに心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほぼできている。これまでの生活歴や価値観、人生歴を把握するために家族様との密な話し合いを持ち新たな不安がないか面会時に要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様が今一番必要としているものは何か密な話し合いの中から見極め適切なサービスの支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほぼできている。本人の意思を尊重し押し付けでなく出来ることへの支援を心掛けコミュニケーションをとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼできている。ホームでの生活状況を面会時やカンファレン時に報告と家族との面会を楽しみにしていることで精神面の安定が図られホームでの生活が継続できていることを理解していただき又、専門医への付き添い受診の協力依頼も行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまりできていない。近隣散歩や買い物を兼ねて街中の散策を楽しまれることと家族様の面会はあっても友人知人等の訪問はほとんどありません。	利用者本人や家族から情報を集め、散歩や買い物等を継続できるよう努めている。利用者の自宅近くまで散歩し、「〇〇さんの家ですね」と話題にしたり、利用者の知人が声を掛ける等の交流も見られる。また、地域交流室の利用者との交流を通して、新たな関係性も生まれている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できている。利用者同士の相性を考えながら数か月ごとに席替えをしたり、行事やレクレーションごとに席の移動をして入居者同士のコミュニケーションの偏りが無い様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族様より相談等あった場合は必要な対応を支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できている。入居者との日常でのかかわりの中で会話や行動の観察、また入居者同士の会話の中からの情報を得ながら把握に努めている。	日頃の利用者の言動から、その想いを推察するよう努めている。また、より深く理解するよう利用者毎に担当職員を配し、ミーティングや担当者会議等で話し合っている。毎朝帽子を被りバッグを持ち、デイサービスに出かけようとする利用者に対し外出支援をしたり、活字に関心を示す方に新聞を提供する等、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様来所持やフェースシートなどで、これまでの生活歴などの情報を参考に支援の検討に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通し、入居者と職員の関わりで得た情報を毎日の申し送りや記録として残しながら現状を把握共有している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている。毎日の申し送りの中や、月一回の全員参加によるカンファレンスを持ち、それぞれの意見などを取り入れたり家族面会時などで要望等を聞き取り現状に合った介護計画の作成をしている。	感染予防のため、利用者の担当者会議への参加を見送り、要望等は事前に聞き、計画へ反映させている。利用者から「歯の具合が気になる」との声があり、介護計画に訪問歯科診療を追加している。3か月毎にモニタリングを実施し、カンファレンスで出された職員間のケアの考え方や注意事項も支援方法に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。日々の支援する中で身体状況など気づいた事を個別記録に書き残し職員間で統一した支援をして行けるようサービスの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ている。日々の生活状況の中で、入居者の状態や変化をつかみ、そのニーズに合わせた対応を出来るよう普段の会話や行動を観察し、関係者の協力を得ながらその時々柔軟な支援サービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できている。地域の方の三線やウクレレボランティアの訪問のほかにも地域交流室を利用されているやーにんじゅ会の活動日に見学参加して歌や踊り・談笑しながら交流している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分にできている。定期受診日には近況の情報提供を提供している。又家族様と相談の上入居前の主治医の継続を望まれるのに対しての対応もしています。	利用者の4名は認知症専門医を継続し5名は協力医の訪問診療を受診している。受診時に、身体状況に変化がある場合は情報提供書を作成し、その他は家族が口頭で状況を伝えている。感染予防の自粛で、訪問診療は服薬のみの受け取り、訪問歯科診療は中止になる等の影響を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	充分にできている。入居者の体調面での変化等気になることが看護師から相談指導がもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	充分にできている。搬送時家族様への引継ぎまでの付き添いや、入院に至るまでの家族様・医療機関への情報提供の対応等、又入院期間・退院時の情報提供を受けている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できている。急変時や重度化した場合必要に応じて家族様を含め検討会議をしている。	看とり介護のガイドラインで指針や対応等の手順を示している。家族等には、急変時や終末期における医療や延命措置の意思確認のうえ、状態変化時の話し合いも行われている。看取りを行う方針は職員に伝え、看取りを経験した職員も数名いるが、研修はこれまで実施されていない。	看取りの指針に基づいた終末期ケア等、職員の経験も活かし、職員間で共通したケアが実践できるような研修が求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できている。初期対応手順の整備や緊急連絡網を作成し又、勉強会(施設内研修等)を持ち対応している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	充分には出来ていない。グループホームだけの小さな訓練と年2回の消防や、同一建物内の事業所と(昼夜想定)の合同訓練を行っている。又、隣の他事業所とも連携した訓練も行っている。	防災マニュアルを整備し、施設内の防災設備、年2回の避難訓練、施設内合同の備蓄等、災害対策が図られている。隣接する高齢者施設と避難訓練で相互協力し、地域での災害対策に活かしている。管理者は何度訓練を重ねても、訓練時に職員が慌てて作業ができないこともあり、十分ではないと認識している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている。話されることに対し、人生の先輩であること人格及びプライバシーの尊厳を第一に考え耳を傾けゆっくりと傾聴するよう対応している。又、排泄の促しや失敗に関しては、自尊心を傷つけることがないように配慮しての声掛け言葉使いで対応している。。	理念で「人格の尊厳」を掲げ、利用者への声かけや対応等、気に懸かる場合は「理念」を顧み、職員間で検討の機会を持っている。管理者は、利用者に対する職員の言葉遣いや呼び方の一部について、他者への影響が懸念されるため、対応を検討している。プライバシー保護マニュアルを整備し、個人情報についてはフロア内に掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できている。本人の意思を尊重し自己決定により日々の趣向品購入や外出支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できている。テレビの好きな方は常にテレビの近くで時間を過ごされたり、ソファで新聞を読まれたり又、席の方角にこだわる方に対しては意思を尊重して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている。入居者全員の清潔を保つよう毎日の着替えの支援をしている。又、自分でできる方には好みの服を選んでいただき、その行為が維持できるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている。できる方には食事の買い出しに同行してもらったり朝食の配膳等や下膳を手伝ってもらっています。又おやつ作りや数か月に1度の昼食作りの下準備など、できる事を職員と一緒に楽しみながら行っています。	食事は、朝食以外は施設内厨房から配食され、利用者の要望や日頃の残食等を給食委員会を通して伝え、献立の変更に反映している。利用者は、おやつのお買い物や調理、食事の配膳、下膳、テーブル拭き等を担っている。入居者と一緒に食事を摂ることで嚥下や嗜好を把握できる効果は理解しているが、食事介助のため、職員と一緒に食事を摂ることはできていない。	食事介助方法等を再検討し、職員が利用者とともに食事が摂れる工夫が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	充分にできている。水分や食事摂取量を毎回記録にとり咽や摂取量減少・体重増減等ある場合は看護師や栄養士・家族と連携を取り食形態の変更や補助食品を付け支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	充分にできている。毎食後の口腔ケアの促しをしている又自室で自分で行っていた方も見守りすることで口腔内の清潔保持ができ、訪問歯科による居宅療養管理もあるので指導相談し、不十分と思われるところまで口腔内の状態を観察保持できる。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できている。昼夜リハビリパンツ使用で排泄パターンをチェックし個々に合わせた促し誘導支援をしている。歩行困難な方3人に対しては夜間のみオムツでのその方にあつた対応支援をしている。	職員は、利用者のトイレ案内の前後に室内歩行を取り入れたり、余暇活動に体操や散歩を取り入れることで下肢筋力の保持に努め、日中は全員がトイレを使用できるよう支援している。夜間は数名がおむつを使用し、尿量が多い方は、2時間に1度確認している。トイレは4か所設置され、入り口はドアが施され、プライバシーが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。排便の予想チェックを職員間で話し合い、水分の回数を増やしたり体操等を取り入れ工夫している。又長引く場合は、看護師へ相談して主治医の指示を実践している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	できている。拒否の強い方には声掛けやじかん・職員を変えるなどの工夫をしている又、皮膚状態や体調などでもその時々にあつた対応をしている。	入浴は週3回で、利用者の好みの石鹸、使用するタオル、洗身のこだわり等、意向に添って支援している。利用者や家族から「異性は嫌」との声もあり、同性介助を原則としているが、同性介助を嫌がる男性入居者には、女性職員が対応している。入浴を拒む場合は、職員2人で対応し、気分を紛らわせる話題や声かけを試みながら、入浴に繋げている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	充分にできている。自室でテレビ視聴したり、夕食後消灯(21時)時間まで共同のスペースで個々の時間を過ごされています。又日中に傾眠ある方や消灯後も寝付かれない方は職員と共同スペースのソファで休まれたり職員との会話を楽しまれたりしています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている。看護師により1週間分のセッティングされた(朝・昼・夕・眠前)の薬を担当職員により日付けを入れたのを服薬支援する職員により再度チェックしています。又お薬ゼリーやはちみつを使用して服薬拒否の無い様に工夫している症状に変化のあるときは看護師や主治医の指示に従い支援している。	服薬マニュアルがあり、1週間単位や1日分などと投薬セッティング方法を明確にしている。服薬を拒む場合の対応として、服薬ゼリー、はちみつなどを利用している。入居者が服薬しやすいように、つぶせる薬への変更や減薬等について、かかりつけ医や薬剤師等と連携協力している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できている。日常の会話や生活歴の中から個々の出来ることを把握し支援している。テーブル拭きや掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ出来ることを役割分担し協力していただいている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できている。天気の良い日には、屋上に行き遠くの景色を見て位置を伝えながら昔話を楽しんだり、又近隣散歩や公園や市場・コンビニ等まで外出支援している。	外出支援は、コロナ禍での感染予防で自粛されるまでは定期的実施していたが、4月以降は近隣の公園や施設周辺の散歩、施設屋上での外気浴等に留まっている。利用者が毎朝外出しようとする行動に合わせ、個別の散歩等も支援している。時々、ドライブにも出かけるが、家族から「車から降ろさないで」との声もあり、車で移動するのみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できている。施設内にある自動販売機や外出支援時には、欲しい物が購入できるように小口の預り金をしての支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年12月3日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できている。入居者本人からの要望があれば、手紙や電話を担当職員により、家族様へ対応している。場合によっては入居者様と直接電話での会話支援をする。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。共用の場所は常に清潔保持や、不快感等にならないよう努め入居者にとって居心地よく過ごせるよう努めている。	フロア内には、テーブルやソファの他、日中でも気軽に静養できるようにフロアから隠れた場所にベッドを設えている。利用者が職員と一緒に作成した、季節に合わせた手工芸作品を壁に掲示している。フロアでの利用者の座席を時々変更したり、高さ調整が可能なテーブルを使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来てる。入居者同士の談笑・廊下での散歩又新聞を読まれたりと、個人個人の時間を工夫して楽しんでます。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。本人が使い慣れた家具やテレビ等を置き安らげる空間にしています。又家族様の面会時等でも居室でゆったり会話を楽しめるようにしています。	居室には利用者の生活用品が用意され、衣装ケースやハンガー掛け、家族等との写真もある。現在、テレビの持ち込みはないが、いつでも設置は可能である。各居室には、ベッドやクローゼット、冷房機器、洗面台が備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来てる。一人一人が出来る事を担当職員を中心に入居者様が戸惑うことなく居室入り口に色付きの表札等を張り出し安全に生活できるよう支援しています。		